

2014 年度 霧多布湿原学術研究助成

『霧多布湿原におけるエゾシカの利用状況および個体数把握』

報告書

2014 年 3 月 31 日

酪農学園大学大学院
野生動物保護管理学研究室 佐藤瑞奈

目次

1. 報告書概要.....	1
1-1. 業務名.....	1
1-2. 業務実施期間.....	1
1-3. 目的.....	1
1-4. 業務箇所.....	2
1-5. 調査方法と結果の概要.....	3
2. ライトセンサス調査.....	4
2-1. 調査ルート.....	4
2-2. 調査期間.....	5
2-3. 調査体制.....	5
2-4. 調査方法.....	5
2-5. 調査結果.....	6
2-6. 考察.....	8
3. 定点調査.....	9
3-1. 調査地点.....	9
3-2. 調査期間.....	10
3-3. 調査体制.....	10
3-4. 調査方法.....	10
3-5. 調査結果.....	11
3-6. 考察.....	13

1. 報告書概要

1-1. 業務名

2015 年度霧多布湿原学術研究助成
『霧多布湿原におけるエゾシカの利用状況および個体数把握』

1-2. 業務期間

2014 年 11 月～2015 年 3 月末日

1-3. 目的

北海道ではエゾシカが増加しており、約 60 万頭以上が生息していると推定されている。特に道東域での生息数が多く鳥獣保護区等での植生被害が報告されている。北海道東部に位置する浜中町霧多布湿原でもエゾシカが多数生息していることが確認されており植生被害の発生が懸念されている。しかし、詳しい生息数や被害状況は明らかにされていない。

そこで本研究では、霧多布湿原に生息するエゾシカの湿原の利用状況を明らかにし、さらに生息数を把握することを目的とする。

1-4. 業務箇所

北海道東部に位置し浜中町霧多布湿原周辺地域を業務箇所対象地域とする（図1）。霧多布湿原は面積約3,168haのヨシやスゲ、ハンノキが生育する低層湿原、エゾカンゾウやノハナショウブが生育する中層湿原、ツルコケモモやガンコウランが生育する高層湿原、アッケシソウやエゾツルキンバイが生育する塩性湿地から形成されている。

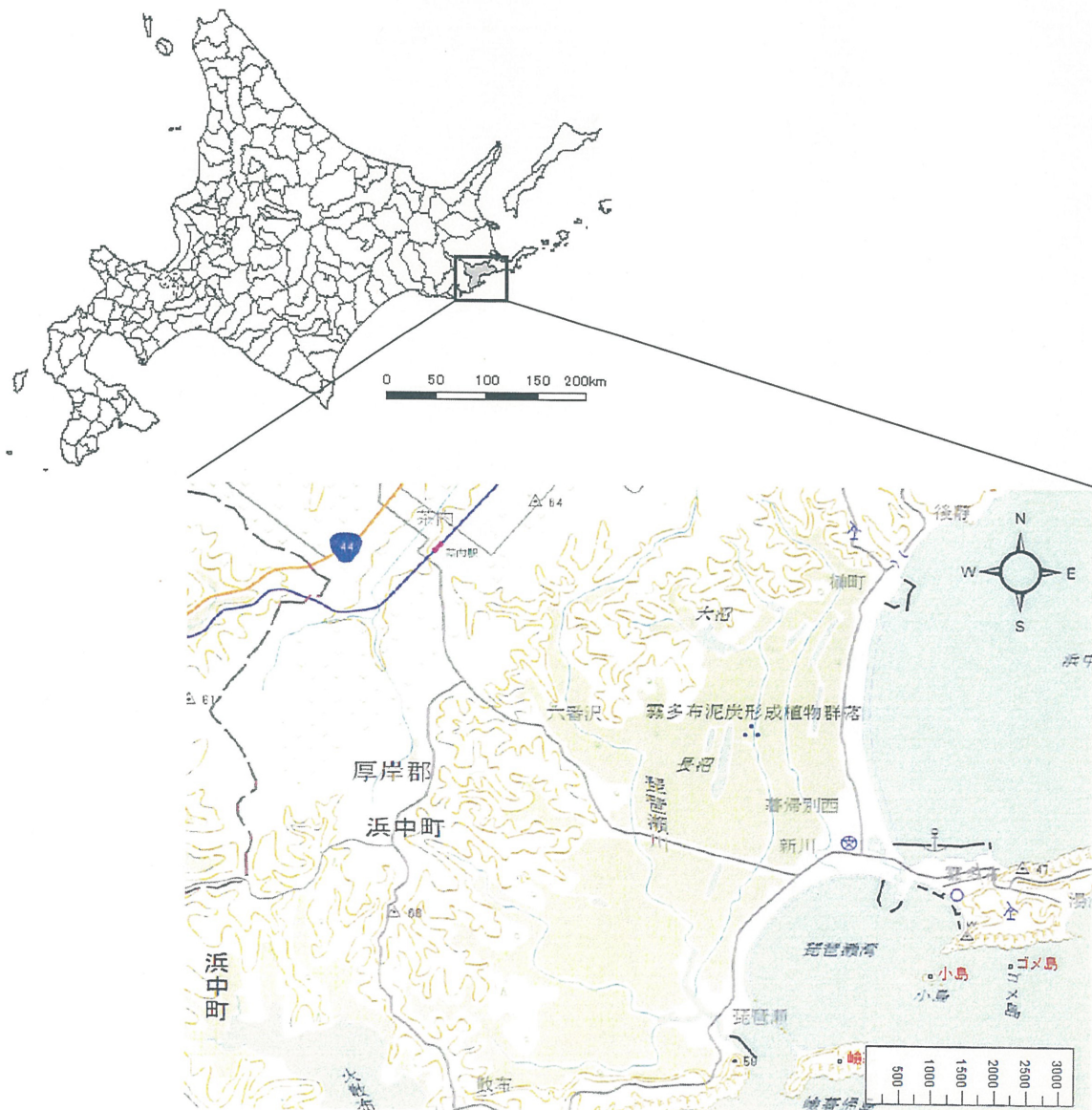


図1.業務箇所である浜中町霧多布周辺の地図

1-5. 調査方法と結果の概要

① ライトセンサス調査

方法：月 1 回（11 月～3 月）の頻度で夜間にライトセンサスを実施し観察できたエゾシカの頭数、時刻、目撃方向、エゾシカの年齢と性別、発見した地点を記録した。

結果：11 月・12 月は特に牧草地や市街地、MG ロード脇での発見頭数が多く 1 月以降は湿原周辺の森林内や斜面に多く確認できた。1 月以降は積雪量が多く湿原内に入ることができなくなり発見できなかったのではないかと推測される。

② 定点調査

方法：月 1 回（1 月～3 月）定点調査を実施し湿原内に発見したエゾシカの頭数を記録した。

結果：最も発見個体数が多かったのは 1 月（正午 61 頭）であり、積雪が多くなった 3 月の調査時は琵琶瀬展望台付近の斜面に個体数が集中していた。斜面周辺での樹皮剥ぎ等の採食行為を確認できたため、湿原内の林内でも食害が発生していると推測される。

2. ライトセンサス調査

2-1. 調査ルート

MGロード（道道 808 号線）を挟んで霧多布湿原の榊町方面を通る調査ルート（以下、ルート①とする）、琵琶瀬方面を通る調査ルート（以下、ルート②とする）の2つの調査ルートを設定した（図2）。

東ルートはMGロードの南側を始点とし、道道 808 号線を進み、道道 599 号線、道道 123 号線を通るルートである。走行距離は約 26km である。

西ルートはMGロードの南側を始点とし、道道 808 号線を進み、湿原センター裏手の三番沢林道を通り道道 599 号線、道道 123 号線を通るルートである。走行距離は 28km である。また積雪期（1～3 月）は林道の通行が不可能になったため除外し走行した。

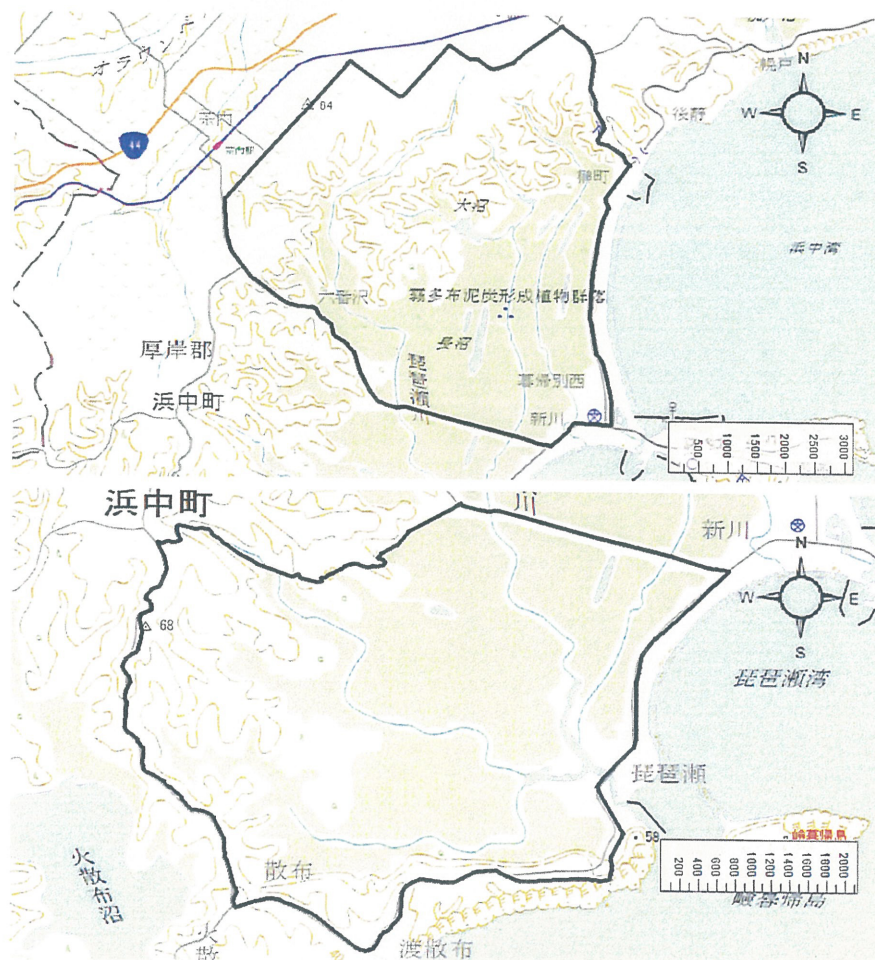


図2. ライトセンサスの調査ルート図

上がルート①、下がルート②の図

2-2. 調査期間

2014年11月～2015年3月の間、月1回調査を実施した（11月はエゾシカの季節移動開始時期のため2回実施）。激しい雨や雪が降るなど悪天候の場合は調査を中止した。また、2月は悪天候のため調査は中止した。

2-3. 調査体制

各ルートを運転手、観察者2名、記録係1名の計4名が自動車に乗り込み調査を実施した。

2-4. 調査方法

調査開始前にあらかじめ調査ルートを示した地図を用意した。日没1時間を目安に十分な暗さを確認できた時間から調査を開始した。調査ルートにそって自動車を低速走行（時速20～30km）し、スポットライトで左右道路脇を照らしエゾシカを探した。安全性を考慮し対向車や後続車が来た際には路肩に停車しハザードランプを点灯させ通過するまで待機した。また、住宅や観光施設が立ち並ぶ区間では、ライトの照射を一時停止するなど配慮をした。

エゾシカを発見した場合は、発見時刻、目撃方向、エゾシカの年齢と性別、観察頭数を記録用紙に記入した。またエゾシカ以外の野生動物を確認した際にも同様に記入した。

2-5. 調査結果

2014年11月から2015年3月の調査でルート①で最大発見頭数210頭、ルート②で最大発見頭数157頭のエゾシカを確認した(表1)。ルート①では2014年11月から12月にかけて発見頭数が増加し、その後減少した。また、11月、12月は牧草地にエゾシカが集中していた。MGロード周辺や市街地でも多数発見したが、1月以降は全く発見できなかった。

ルート②では1月の発見頭数が最も多く11月、12月はほぼ同じであり3月は最も少ないという結果になった(表2)。1月以降の積雪後は、琵琶瀬展望台方面の斜面に多くエゾシカが確認できた。

表1. ルート①のライトセンサス結果

ルート①	メス	仔	メス仔 不明	オス		不明	合計
				成獣	一尖		
2014/11/7	18	16	20	7	2	120	183
2014/11/30	40	19	45	12	3	172	291
2014/12/12	53	29	93	10	1	210	396
2015/1/24	15	6	1	4	0	0	26
2015/3/7	2	2		1	0	5	10

表2. ルート②のライトセンサス結果

ルート②	メス	仔	メス仔 不明	オス		不明	合計
				成獣	一尖		
2014/11/7	48	24	14	7	6	23	122
2014/11/28	51	33	2	10	3	14	113
2014/12/11	42	17	10	2	2	18	91
2015/1/26	35	16	84	8	5	9	157
2015/3/6	10	16	9	2	0	14	51

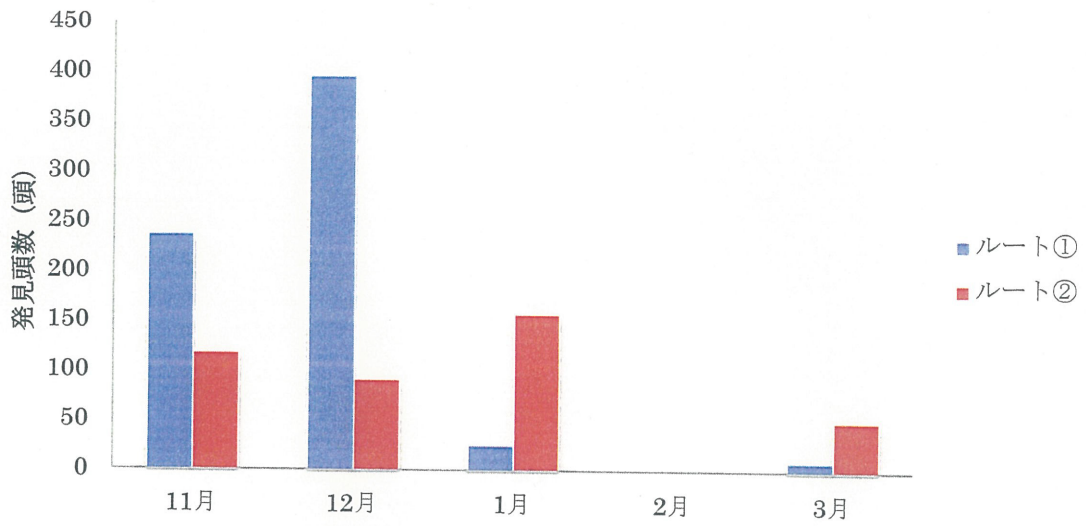


図3. ライトセンサス結果の月ごとの推移
 2月は悪天候のため調査を中止した

2-6. 考察

12月の調査以降湿原内にほとんどエゾシカを確認できなくなった。これは12月下旬にまとまった積雪がありまたその後も降雪が続き湿原内の積雪量が多く湿原内部に入れなくなったためと考えられる。またルート①で12月以降に発見頭数が減少したのは積雪もしくは牧草地に集中してエゾシカを確認できていたため、季節移動し別の地域に移動した可能性が考えられる。また、ルート②で積雪後琵琶瀬周辺の斜面に多く発見されたのは、斜面は晴れた日には日差しが全体的に良く当たり斜面の雪が溶けやすく下層植生等の餌資源を得やすいためと考えられる。実際に積雪期の調査中にもその斜面でエゾシカが草本や樹木の枝・樹皮を食べる光景が見られた（写真1）。

今年度は積雪が例年よりも多くエゾシカの行動も不規則なものになっていたと推測されるため、今後も調査を継続し個体数：データの蓄積をしていく必要があると考えられる。



写真1. 琵琶瀬展望台付近の斜面に集まるエゾシカ

3. 定点調査

3-1. 調査地点

霧多布湿原の南側に位置する琵琶瀬展望台を調査地点とした（図4）。



図4. 調査地点の地図

赤い三角は調査地点の琵琶瀬展望台を示す



写真2. 琵琶瀬展望台からのパノラマ

3-2. 調査期間

2015年1月から3月の間、月1回の調査を実施した。激しい雨や雪が降るなど天候条件が悪い日には調査を延期もしくは中止した。

3-3. 調査体制

調査地点にて観察者3名、記録者1名で調査を実施した。

3-4. 調査方法

午前、正午、日没1時間前に最低20分間調査を実施した。観察者は双眼鏡(Nikon 10-22×50)を用いて湿原内を観察、エゾシカを探した。エゾシカを発見した場合は記録用紙に目撃方向、エゾシカの性別、発見頭数を記入した。エゾシカ以外の野生動物が確認された場合も同様に記入した。



写真3. 定点調査風景

2-5. 調査結果

定点調査を実施した結果、1月が最も発見頭数が多いという結果になった（表3）。なお、1月の日没前の調査は降雪のため中止した。また、2月は調査時に強い風が吹いていたためエゾシカが確認されなかったと推測される。3月は湿原内ではなく琵琶瀬展望台周辺の斜面に多く確認された。

1月・3月共にエゾシカを発見できた地点は林縁や斜面、河川の近くであった（図5, 図6）。また3月の調査時は湿原内部にほとんどエゾシカを確認できず、琵琶瀬展望台の斜面に多く確認できた。

表3. 定点調査で観察されたエゾシカの頭数

	午前	正午	日没前
1月	43	61	-
2月	0	0	0
3月	0	3	20

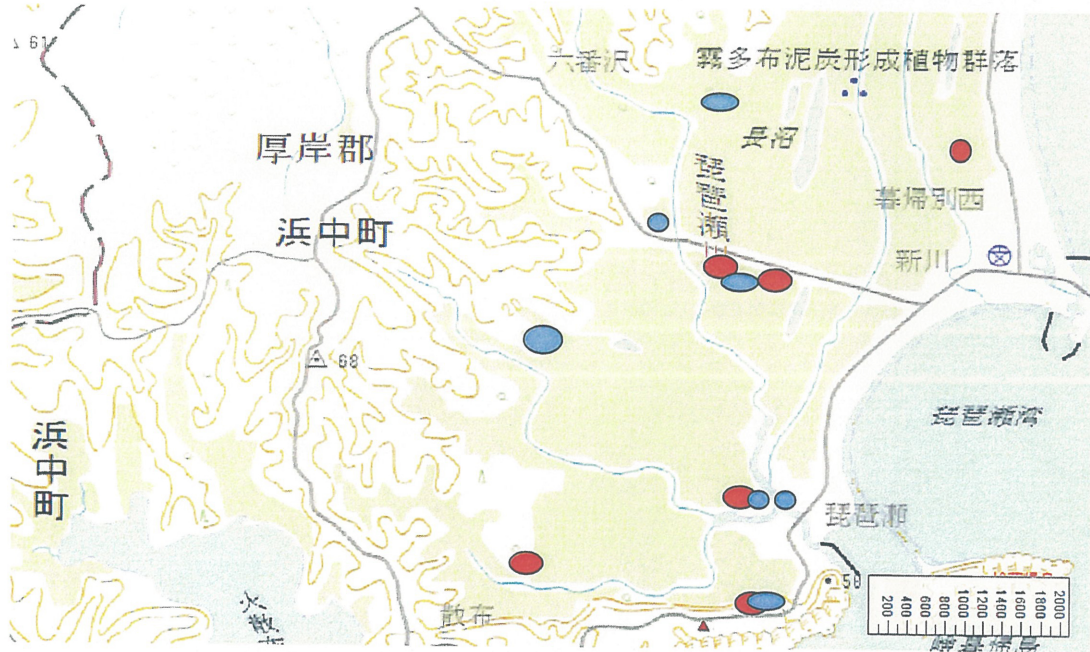


図5. 1月の定点調査でエゾシカを発見した位置
 赤色の円は午前に見つけた位置であり青色の円は正午に見つけた位置を示す

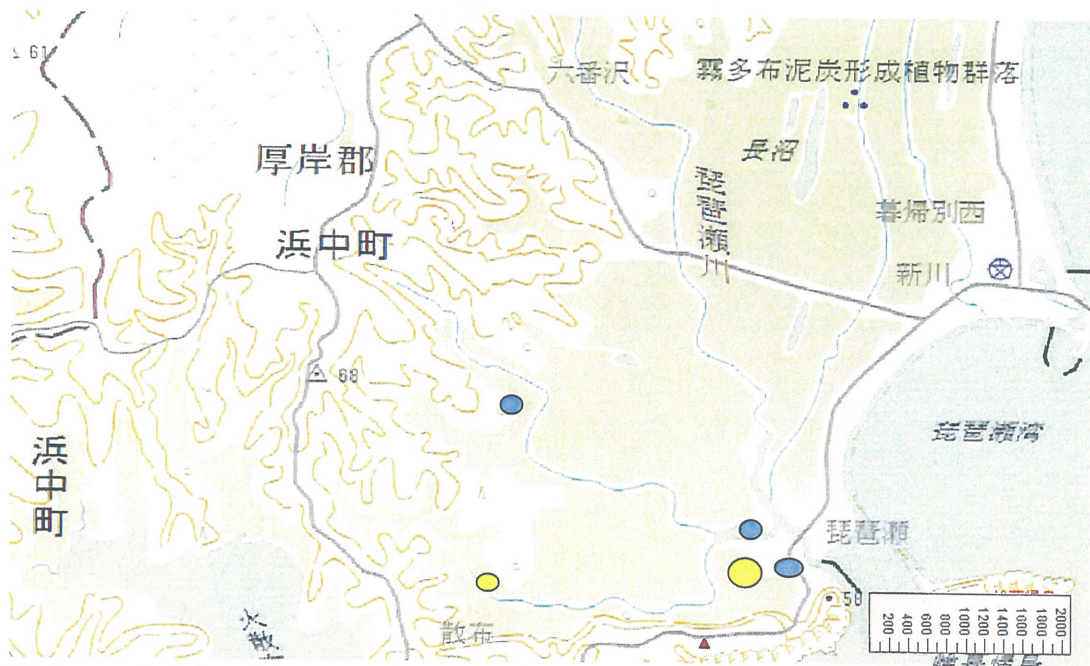


図6. 3月の定点調査でエゾシカを発見した位置
 青色の円は正午に見つけた位置であり黄色の円は日没前に見つけた位置を示す

2-6. 考察

調査の結果より湿原周辺の林縁やMGロード脇、琵琶瀬展望台周辺の斜面に生息が集中していることが明らかとなった。特に積雪が多くなった3月の調査時には発見したほとんどの個体が琵琶瀬展望台周辺の斜面であり、ライトセンサスの結果と同様、日のよく当たる雪解けが進みやすいため集まるのではないかと推測される。また、本年は積雪量が多かったため湿原内部に入りにくかったため湿原内での発見頭数が少なかった可能性が考えられる。

ライトセンサス調査と同様継続して調査を実施し年変動含め把握していく必要があると考える。